

授業科目	地域共生論	担当教員	高田 友子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2 単位
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	地域における生活と支援の基礎的な知識（地域共生社会の制度・施策、介護保険関連の諸制度）を学びます。				
到達目標	介護福祉士として重要な視点・知識を学び、様々な諸制度、施策を比較し、区別して習得することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第 3 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、グループディスカッションの積極的な姿勢（発言、相手の意見への理解）を総合的に判断して評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	30			
履修上の留意事項	講義は、教科書を中心としながら、必要に応じて重要な内容はプリントや資料の配布を行いながら進めていきます。適宜、演習、グループ活動も交えるので、学生の皆さんには積極的な参加、お互いの協力ができるように期待します。講義の内容で制度や施策等、難しく覚えていくのですが、日常生活でも知っているのと役に立つため、どの場面でどのような制度や施策が利用できるか、結びつけると覚えやすいと思います。講義内容でわからない部分があれば、講義後にでも、いつでも質問してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	・勉強方法 ・地域共生論とは・・・ ・人間の尊厳、ソーシャルワーク視点		
	2	生活基本機能	・生活の基本機能 ・「生活」への接近方法 ・「社会生活」のメカニズム ・家庭生活の機能		
	3	ライフスタイルの変化	・生活と働き方の変化 ・生涯学習 ・少子高齢化と健康寿命		
	4	家族の機能と役割	・家族の概念とその変容 ・家族の構造や形態 ・家族の機能とその変化 ・家族間の多様化		
	5	社会・組織の機能と役割	・社会・組織の概念 ・社会・組織の機能と役割 ・グループ支援、組織化		
	6	地域・地域社会	・地域、地域社会、コミュニティの概念 ・地域社会の集団、組織 ・地域社会の変化（産業化、都市化、過疎化）		
	7	地域社会における生活支援	・生活支援と福祉 ・自助・互助・共助・公助		
	8	地域社会の発展	・地域福祉の理念 ・地域福祉の歴史的展開 ・地域福祉の推進 ・災害と地域社会		
	9	地域共生社会	・地域共生社会をめざす社会的背景 ・地域共生社会の理念 ・地域共生社会の実現に向けた取り組み		
	10	地域包括ケア	・地域包括ケアの理念 ・地域包括ケアシステム		
	11	個人の権利を守る制度	・虐待防止に関する制度 ・サービス利用に関する制度 ・消費者保護に関する制度 ・その他の個人の権		

			利を守る制度
	12	保健医療に関する制度	・保健医療に関する制度 ・生活習慣病の予防 ・対策に関する制度 ・結核・感染症の予防・対策に関する制度 ・HIV/エイズの予防・対策に関する制度
	13	貧困、生活困窮者支援に関する制度	・生活保護法 ・生活困窮者自立支援法 ・その他
	14	地域生活を支援する制度・施策	・就労支援、雇用促進に関する制度 ・住生活を支援する制度 ・自殺を予防する制度 ・その他
	15	総まとめ、復習	・全体のまとめ、要点の整理

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	キャリアデザインⅠ	担当教員	橋本 亮太		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態		授業回数	8回	時間数	15時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。				
到達目標	幅広い福祉に関する活動への参加や体験を通して、多様化する社会に応じた介護福祉職に必要な知識と人間性を身につける。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	提出課題、活動への参加姿勢、グループディスカッションへの積極的な姿勢（相手の意見の理解や発言）等、総合的に勘案し評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
	その他	60			
履修上の留意事項	一つひとつ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。日程調整をしながら進行します。順番は変わることもあります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学科交流会①	一年生を迎える会		
	2	障がい者スポーツの理解①	障がい者スポーツの理解と実践①		
	3	障がい者スポーツの理解②	障がい者スポーツの理解と実践②		
	4	地域実践活動①	地域の理解と社会資源の理解①		
	5	地域実践活動②	地域の理解と社会資源の理解②		
	6	卒業生による講話	介護福祉士の仕事や活躍の場を理解する、学生生活の過ごし方の理解を図る		
	7	学科交流会②	企画・運営		
8	学科交流会③	卒業生を送る会			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	こころとからだのしくみⅢ		担当教員	喜田 俊恵	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	人のこころやからだを理解する上での基本的内容を学ぶ。身じたく、移動、食事、入浴などの生活活動に対して、そのしくみや加齢による変化、及び心理的側面への配慮を学ぶ。				
到達目標	日常生活動作を行う為の身体のしくみについて、専門職としての必要な知識を述べる事が出来る。 介護を実践するにあたり、ケアの根拠を説明することが出来る。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50	定期試験、小テスト、授業での積極的発言、グループワークでの参加態度を総合的に勘案し評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	教科書に基づき講義・演習と定期的に小テストを行います。生活支援技術と関連付けて学習して下さい。覚えなければならないことがたくさんあります。積極的に授業に参加して、知識を深めていして下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	こころとからだのしくみとは何か 授業の進め方について		
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動のしくみ		
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習		
	5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ		
	6	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ		
	7	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響		
	8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応		
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	演習		
	10	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ		
	11	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ		
	12	食事に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響		
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応		
	14	食事に関連したこころ	演習		

		とからだのしくみ	
15	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ	
16	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ	
17	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	
18	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応	
19	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	演習	
20	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄のしくみ	
21	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄のしくみ	
22	排泄に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	
23	排泄に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習	
24	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	休息・睡眠のしくみ	
25	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	
26	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	変化に気づくためのポイント	
27	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	「死」を理解する	
28	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	終末期から「死」までの変化と特徴	
29	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	「死」に対するところの理解 医療職との連携のポイント・演習	
30	まとめ	全体のまとめ	

授業科目	こころとからだのしくみ Ⅲ	担当 教員 実務 経験	喜田 俊恵 有：■ 無： □	看護師として病院に勤務
対象年次・学 期	1 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	介護の基本Ⅱ		担当教員	立成 みゆき		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。					
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 第3版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第3版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	60	定期試験、小テスト、提出物、グループディスカッション時の積極的な発言や相手の意見を聞く姿勢などを総合的に評価します。			
	レポート	0				
	小テスト	20				
	提出物	10				
	その他	10				
履修上の留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは①	身近になった介護サービス			
	2	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは②	介護の意味、見方、考え方の変化			
	3	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは③	介護問題への対応、歴史的変遷①			
	4	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは④	介護問題への対応、歴史的変遷②			
	5	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑤	介護サービスの歴史的変遷、時代背景①			
	6	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑥	介護サービスの歴史的変遷、時代背景②			
	7	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑦	介護サービスの歴史的変遷、時代背景③			
	8	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑧	介護と医行為、医療的ケアについて			
	9	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑨	介護理念について			
	10	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑩	基本的人権の主体			
	11	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑪	利用者主体の生活支援			
	12	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑫	利用者の権利に基づくサービス指針			
	13	教科書Ⅱ第3章 感染対策の基礎	感染対策、手洗い演習、前期まとめ			

	14	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割①	地域包括ケアシステムの背景
	15	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割②	介護問題の背景
	16	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割③	介護予防の視点
	17	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割④	災害時支援と災害派遣福祉チーム
	18	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割⑤	社会福祉士及び介護福祉士法
	19	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割⑥	求められる介護福祉士像
	20	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割⑦	介護福祉士を支える団体
	21	教科書Ⅰ第3章 介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
	22	教科書Ⅰ第3章 介護福祉士の倫理②	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」①
	23	教科書Ⅰ第3章 介護福祉士の倫理③	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」②
	24	教科書Ⅰ第3章 介護福祉士の倫理④	日本介護福祉士会倫理綱領①
	25	教科書Ⅰ第3章 介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領②
	26	教科書Ⅰ第3章 介護福祉士の倫理⑥	倫理について考える演習
	27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
	28	教科書Ⅰ第4章第3節 介護とリハビリテーション①	リハビリテーションの考え方
	29	教科書Ⅰ第4章第3節 介護とリハビリテーション②	理学療法の理解
	30	教科書Ⅰ第4章第3節 介護とリハビリテーション③	作業療法の理解

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	障害者支援	担当教員	山口 ゆか		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2 単位
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	障がいのある方への生活支援に携われるよう各種の障がいについて学習していく。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考えられることの出来る視野が広く、持続可能な介護福祉士となること。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第 3 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	定期テスト 60%、提出物 30%、平常点 10%として評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	10			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	社会的障壁と合理的配慮		
	2	障害のある人の心理	人間の欲求、適応機制、障害受容		
	3	肢体不自由	種類、原因、特性、理解、支援		
	4	視覚障害	種類、原因、特性、理解、支援		
	5	聴覚・言語障害	種類、原因、特性、理解、支援		
	6	重複障害	種類、原因、特性、理解、重複障害児・者支援		
	7	内部障害①	心臓、呼吸器、腎臓、膀胱、直腸について		
	8	内部障害②	小腸、ヒト免疫不全ウイルス、肝臓について		
	9	重症心身障害	種類、原因、特性、理解、支援		
	10	知的障害	理解、支援、ライフステージに応じた生活		
	11	精神障害	種類、原因、特性、理解、支援		
	12	高次脳機能障害	種類、原因、特性、理解、支援		
	13	発達障害	種類、特性、理解、支援		
	14	難病	特性、理解、支援		
	15	全体のまとめ	これまでのおさらい		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	介護過程の実践Ⅰ		担当教員	高橋 綾		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態			授業回数	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。					
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践に伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。					
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	60	その他は、授業への取り組み姿勢やグループワークへの積極的姿勢等、総合的に評価します。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	10				
	その他	30				
履修上の留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合がありますので、課題の提出期限は必ず守ってください。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	介護過程の基礎の振り返り	介護過程の基礎の振り返り			
	2	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）①	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）について			
	3	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）②	事例検討Ⅰ（アセスメント・個人演習）			
	4	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）③	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）			
	5	介護計画立案①	介護計画立案について			
	6	介護計画立案②	事例検討Ⅰ（介護計画立案・個人演習）			
	7	介護計画立案③	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）			
	8	介護計画立案④	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）			
	9	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）			
	10	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）			
	11	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）			
	12	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）			
	13	事例検討	ひもときシートの活用			
	14	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク①）			
	15	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク②）			

	16	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク③）
	17	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク④）
	18	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
	19	介護過程とケアマネジメント②	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①
	20	介護過程とケアマネジメント③	チームアプローチにおける介護福祉士の役割②
	21	国家試験対策模擬問題①	国家試験対策模擬問題①
	22	国家試験対策模擬問題②	国家試験対策模擬問題②
	23	まとめ	介護過程の実践Ⅰ まとめ

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	生活支援技術Ⅳ		担当教員	高橋 綾	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	この科目で学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけでなく、その人がこれまでの生活習慣で獲得してきた様式や個性に着目して支援することの大切さを学びます。また、「若い」や「障がい」等の見える部分のみを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境（人・物）や周囲との関係（相互作用）性等を多角的に捉え、根拠に基づく介護実践（知識と技術の習得）を目指します。				
到達目標	①様々な日常生活行為における意義と目的を説明することができる。②様々な日常生活行為におけるアセスメントの視点を養い、それらを述べるができる。③なぜそのように支援するのか、支援の根拠を理解し述べるができる。④介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第3版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	定期試験：生活行為の意義・目的、また、支援の根拠等の理解度を評価する。 その他：実技達成状況（30%）、授業姿勢（10%）とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	40			
履修上の留意事項	①教科書に基づいて講義・演習を展開しますが、必要に応じて参考資料配布・視聴覚教材・ARを使用します。②歯科衛生学科教員より口腔ケア講習を受講します。③介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従ってください。④介護技術の習得には、根拠を正しく理解した上で繰り返し取り組む姿勢が重要です。関連科目の横断学習と、授業中はもとより授業時間外でも積極的な練習姿勢を求めます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基本となる介護技術とは何か、ベッドメイキング①（高橋）	生活支援技術を学ぶにあたって、ベッドメイキングの基礎知識		
	2	ベッドメイキング②（高橋）	シーツの畳み方、敷き方（三角コーナー・四角コーナー）①《実技》		
	3	ベッドメイキング③（高橋）	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）②《実技》		
	4	ベッドメイキング④（高橋）	臥床したままのシーツ交換③《実技》		
	5	自立に向けた身じたくの介護①（高橋）	着脱の基礎知識、前開きの衣類の着脱（座位）①《実技》		
	6	自立に向けた身じたくの介護②（高橋）	前開きの衣類の着脱（座位）②《実技》		
	7	自立に向けた身じたくの介護③（高橋）	丸首衣類の着脱（座位・臥位）《実技》		
	8	自立に向けた身じたくの介護④（高橋）	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》①		
	9	自立に向けた身じたくの介護⑤（高橋）	日常着の着脱、浴衣の着脱《実技》		
	10	自立に向けた身じたくの介護⑥（高橋）	場面に応じた着脱介護《実技》 ボタンエイド制作		

	11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①（高橋）	入浴に関する基礎知識、バスボム制作
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②（高橋）	全身清拭《実技》
	13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③（高橋）	入浴の介護《実技》
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④（高橋）	手浴・足浴の介護《実技》
	15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤（高橋）	臥床しての洗髪の介護①
	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥（高橋）	臥床しての洗髪の介護②
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦（高橋）	ハンドマッサージ①《実技・練習》、シャボンラッピング
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑧（高橋）	ハンドマッサージ②《実技・実践》
	19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑨（高橋）	ハンドマッサージ③《実技・実践》
	20	自立に向けた身じたくの介護⑩（高橋）	整容（爪・ひげそり）の介助《実技》
	21	自立に向けた身じたくの介護⑪（高橋）	口腔ケア①《実技》
	22	自立に向けた身じたくの介護⑫（高橋）	口腔ケア②《実技》
	23	休息と睡眠環境を整える①（高橋）	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	24	休息と睡眠環境を整える②（高橋）	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	25	実技のまとめ①（高橋）	実技のまとめ（着脱）
	26	実技のまとめ②（高橋）	実技のまとめ（着脱）
	27	実技のまとめ③（高橋）	実技のまとめ（入浴）
	28	実技のまとめ④（高橋）	実技のまとめ（入浴）
	29	介護福祉士国家試験対策①（高橋）	介護福祉士国家試験対策①
	30	介護福祉士国家試験対策②（高橋）	介護福祉士国家試験対策②

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	人間の尊厳と自立	担当教員	杉浦 理恵		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	介護福祉職としての人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養うことを目的とする。				
到達目標	①人間の尊厳と人権・福祉理念について理解している。 ②自立概念について理解し、自立支援や尊厳を大切にしたいケアについて考えることができる。 ③介護福祉実践において生じる倫理的課題を考えるための理論を理解している。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	定期試験は、本科目で取り扱った基本的な知識が定着しているかを測るために行う。		
	レポート	15	レポートは、人権問題に対する意識の程度、説明力、考察の深まり、提出期限の遵守、体裁の整えの観点から評価する。		
	小テスト	10	小テストは、適時行い、点数を評価に反映する。		
	提出物	0	その他は、積極的な受講姿勢（質問、問いかけへの応答、グループディスカッション時の発言や役割遂行など）を評価する。		
	その他	15			
履修上の留意事項	本科目は、介護福祉職の基盤となる科目であるため、休まずに受講してほしい。 また、介護福祉職に就く者として、常々「この答えで本当に良いのか」と自分自身に問いかけ、より良い答えを追求する姿勢を忘れずに臨んでほしい。 やむを得ず欠席した場合は、次回授業時までに授業資料を取りに来てください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	専門性の構造と本科目の位置づけの理解	介護福祉士養成教育及び専門性の構造における本科目の位置づけについて説明する。 また、本科目の目的、具体的展開、評価について説明する。		
	2	人間の尊厳を大切にしたい介護を考える①	利用者の尊厳を大切にしたい介護福祉職の基本的姿勢や対応について実習前に確認する。		
	3	人間の尊厳を大切にしたい介護を考える②	実習での実体験をもとに、人間の尊厳を大切にしたい介護の実践（具体例）や課題、疑問を共有し検討する。		
	4	介護福祉職としての人間の理解①	学生自身のライフヒストリーを振り返り、自分の価値観と醸成されたプロセスに目を向ける。 援助者の自己覚知の必要性和利用者のライフヒストリーを知る必要性、人間は学習する生きものであることの理解を図る。		
	5	介護福祉職としての人間の理解②	人間は様々な社会関係や役割の中で生活している「社会的存在」であることや、多様な社会的役割を担っている「生活者」として理解する必要があることを事例を用いて具体的理解を図る。		
	6	介護福祉職としての人間の理解③	支援対象者の身体的側面・精神的側面・社会的側面をトータルにとらえて支援を考える必要性を事例を用いて理解を図る。		
	7	社会福祉領域における自立概念の理解	学生自身が自立をどうとらえているかを確認し、社会一般における自立のとらえ方の共通認識を図るとともに、社会福祉領域における自立・自律の		

			とらえ方への理解を図る。
	8	自立支援について考える	自立支援に必要な視点を理解し、自己効力感やスモールステップの重要性への理解を図る。
	9	人権侵害の理解	DVD「華の舞」の視聴を通し、ハンセン病に関する歴史、社会的排除の実際を知る。
	10	人権・福祉理念の理解①	人権思想の世界的な流れを理解するとともに日本の最高法規である日本国憲法と社会福祉の関連について理解を図る。
	11	人権・福祉理念の理解②	ノーマライゼーション、ソーシャルロールパロリゼーション、ソーシャルインクルージョンなどの知識を習得する。
	12	倫理的課題について考える能力を養う①	QOL、尊厳死、アドバンスケアプランニングについて学習し、生命や本人主体、権利擁護について考える。
	13	倫理的課題について考える能力を養う②	事例を用いて、倫理的ジレンマについて検討する。
	14	倫理的課題について考える能力を養う③	事例を用いて、倫理的ジレンマについて検討する。
	15	全体のまとめ	各回の振り返りを行う。 あらためて人間の尊厳と自立とは何かを考える。

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	発達と老化の理解	担当教員	阿部 幸恵		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
到達目標	介護実践に必要な根拠となる心身の構造、機能、発達段階とその課題及び特徴的な疾病について述べられる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 (参考図書)『からだの地図帳』佐藤達夫 講談社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	・左記「小テスト」は、單元ごとに小テストを実施します。		
	レポート	0	・左記「提出物」は、DVD鑑賞後の感想その他必要に応じてプリントの確認のための提出を求めます。		
	小テスト	10	・左記「その他」は、積極的発言や授業参加姿勢、必要資料の準備が整っているなどが含まれます。		
	提出物	10	以上を総合的に勘案します。		
	その他	10			
履修上の留意事項	毎回内容が違いますから休まないように自己の体調管理をしてください。休んだ際は必ず担当まで確認に来てください。 少し難しい分野かもしれませんが、積極的に授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識	オリエンテーション 成長・発達の考え方		
	2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の原則・影響する要因		
	3	第2章 人間の発達段階と発達課題	発達理論・発達段階と発達課題		
	4	第2章 人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達 心理的機能・社会的機能の発達		
	5	第3章 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義 老化とは		
	6	第3章 老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題 老年期をめぐる今日的課題		
	7	第4章 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①		
	8	第4章 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②		
	9	第4章 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響③		
	10	第4章 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響 注意と記憶 パーソナリティ		
	11	第4章 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響 老化理論		

	12	第5章 高齢者と健康	高齢者の健康が注目されるようになった背景と疾患の症状と特徴を理解する
	13	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系（骨粗鬆症・骨折など）
	14	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系（変形性膝関節症・腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチなど）
	15	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（パーキンソン病）
	16	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（脳血管疾患）
	17	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（脳血管疾患）
	18	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系（白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴・皮膚疾患）
	19	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系（高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症）
	20	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系（高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症）
	21	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系（慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核）
	22	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系（消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変など）
	23	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系（前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎臓病・（復習/尿失禁））
	24	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系（糖尿病・脂質異常症・痛風など）
	25	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患（歯周病・ドライマウス） 悪性新生物（概要・変遷・法律など）
	26	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	さまざまな悪性新生物（がん）について

	27	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い 疾患・症状と生活上の 留意点	感染症（ウイルス性呼吸器感染症・感染性胃腸 炎・胆のう炎・胆管炎・疥癬）
	28	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い 疾患・症状と生活上の 留意点	精神疾患（うつ病・統合失調症）
	29	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い 疾患・症状と生活上の 留意点	その他（熱中症・脱水・貧血） 多職種連携
	30	まとめ	今までの振りかえりとまとめ

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	障害者福祉論		担当教員	山口 ゆか	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2 単位
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	障がいのある方への生活支援に携われるよう各種の障がいについて学習していく。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考られるよう、広い視野をもち持続可能な介護福祉士としての要素を身につける。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第 3 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50	定期テスト 50%、レポート 20%、小テスト 20%、平常点 10%として評価する。		
	レポート	20			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	10			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	障がいとは		
	2	障害の概念	障害の捉え方、ICIDH から ICF への変遷		
	3	障害者福祉の基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション		
	4	当事者の体験	当事者の困り感を体験を通じて感じる 演習		
	5	障害者福祉に関する制度	障害者差別解消法、虐待防止法		
	6	障害福祉サービス	障害者総合支援法とは		
	7	地域のサポート体制	提供の仕組み、連携		
	8	当事者の体験	当事者の困り感を体験を通じて感じる 演習		
	9	地域のサポート体制とチームアプローチ	チームとは、チームづくりの留意点		
	10	チームアプローチの実践	演習		
	11	ご家族への支援	ご家族に障がいのある方たちの実際		
	12	実践報告	強度行動障害のある方の事例		
	13	障がいのある方へのコミュニケーション方法	演習		
	14	札幌市の障がい福祉サービス	札幌市行動援護ネットワークの方のお話		
	15	全体のまとめ	これまでのおさらい		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	介護総合演習Ⅰ		担当教員	阿部 幸恵		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	介護福祉基礎実習及び介護福祉実習Ⅰにおける事前・事後学習として位置付け、実習に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。					
到達目標	介護福祉実習に必要とされる施設や利用者理解、記録方法、行事プログラムの計画・実践等、介護実践に必要な能力を身につける。また実習を振り返り、介護の知識と技術を実践へと結び付けることができる。					
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『2026年度 介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	「提出物」とは、学内での取り組みに関する実施記録や練習日誌の提出、施設に提出する記録物が含まれます。誤字脱字がないことや内容、期限厳守での提出を求めます。 「その他」では、調べ学習や企画、授業内での取り組み姿勢、報告会の参加姿勢が含まれます。 以上を総合的に勘案します。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	30				
	その他	70				
履修上の留意事項	特に施設への提出物は期限厳守でお願いします。 介護実習での学びを高めるための準備と実習後の振り返りにより知識技術を統合化し、自己の課題を明確にして専門職としての態度を養う科目です。自らが当事者として積極的に取り組んでください。準備を整え実習に向かえるようにしましょう。また、実習後は学びを共有をしていきましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	介護総合演習の位置づけ（阿部）	オリエンテーション 介護総合演習の位置づけ			
	2	介護福祉実習の意義と目的（阿部）	介護福祉実習の意義と目的 到達目標 実習のながれ			
	3	記録について①（阿部）	介護福祉実習における記録物、日誌について			
	4	記録について②（阿部・高橋・橋本）	日誌の書き方ポイント、日誌を書いてみよう			
	5	介護福祉実習の心得（阿部）	介護福祉実習の心得、出欠表の書き方、お礼状			
	6	介護福祉実習前準備（阿部・高橋・橋本）	個人票、同意書、誓約書の作成			
	7	介護福祉実習前準備（阿部・高橋・橋本）	介護福祉基礎実習 事前学習（調べ学習）①			
	8	介護福祉実習前準備（阿部・高橋・橋本）	介護福祉基礎実習 事前学習（調べ学習）②			
	9	介護福祉実習前準備（阿部・高橋・橋本）	介護福祉基礎実習 事前学習（調べ学習）③			
	10	リスクマネジメント（阿部）	介護福祉実習におけるリスクマネジメント、感染症対策			
	11	介護福祉基礎実習オリエンテーション（阿部・高橋・橋本）	介護福祉基礎実習にむけて報告・連絡・相談・記録物等最終確認			

	12	介護福祉基礎実習①後 振り返り（阿部・高 橋・橋本）	介護福祉基礎実習①振り返り、自己評価、提出物 確認、GW
	13	介護福祉基礎実習②後 振り返り（阿部・高 橋・橋本）	介護福祉基礎実習②振り返り、自己評価、提出物 確認、GW
	14	介護福祉基礎実習③後 振り返り（阿部・高 橋・橋本）	介護福祉基礎実習③振り返り、自己評価、提出物 確認、GW
	15	介護福祉実習Ⅰに向け て（阿部・高橋・橋 本）	介護福祉実習Ⅰの目的・意義 ながれ、実習のイ メージができる
	16	介護福祉実習Ⅰに向け て（阿部・高橋・橋 本）	個人票、実習週別目標作成
	17	介護福祉実習Ⅰに向け て（阿部・高橋・橋 本）	カンファレンスの意義・目的、模擬カンファレン スの実施、報告連絡相談の確認
	18	介護福祉実習Ⅰに向け て（阿部・高 橋・橋本）	意見交換会、発言の練習、なぜの視点
	19	介護福祉実習報告会 （阿部・高橋・橋本）	2年生の介護福祉実習報告会に参加 実習での取 り組みイメージができる
	20	介護福祉実習Ⅰに向け て《実技》（高橋・橋 本）	実習に向けての実技確認と必要な準備について2 年生から学ぶ①
	21	介護福祉実習Ⅰに向け て《実技》（高橋・橋 本）	実習に向けての実技確認と必要な準備について2 年生から学ぶ②
	22	介護福祉実習Ⅰに向け て（阿部）	リスクマネジメント・感染症対策等再確認
	23	介護福祉実習Ⅰに向け て（阿部・高橋・橋 本）	基本的な介護技術・知識の確認
	24	介護福祉実習Ⅰオリエ ンテーション（阿部・ 高橋・橋本）	実習に向けての最終確認 実習後の提出物・スケ ジュールの確認
	25	介護福祉実習Ⅰまとめ ①（阿部・高橋・橋 本）	介護福祉実習Ⅰ振り返り①
	26	介護福祉実習Ⅰまとめ ②（阿部・高橋・橋 本）	介護福祉実習Ⅰ振り返り②
	27	介護福祉実習Ⅰ報告会 （阿部・高橋・橋本）	介護福祉実習Ⅰ報告会
	28	介護福祉実習Ⅰ後学習 と今後（阿部・高橋・ 橋本）	介護福祉実習Ⅰを振り返り、今後の課題と介護福 祉実習Ⅱの検討
	29	介護福祉実習Ⅰ後学習 と今後（阿部・高橋・ 橋本）	介護福祉実習Ⅰを振り返り、今後の課題と介護福 祉実習Ⅱの検討
	30	介護福祉実習Ⅰ後学習 （阿部・高橋・橋本）	介護福祉実習Ⅱに向けた準備

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

